



No.55
2021.1.15
発行：特定非営利活動法人
所沢市学童クラブの会
広報部
所沢市くすのき台2-20-6
Tel：04-2994-6753

あけましておめでとうございます

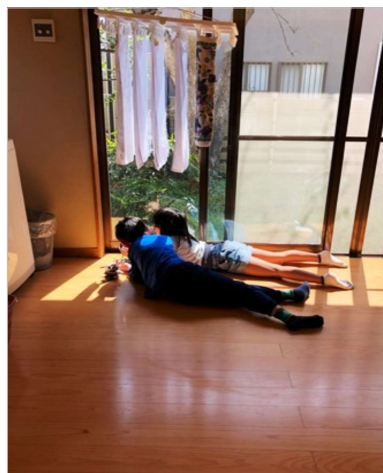
緑町三丁目学童保育所

二〇二〇年四月一日、NPO法人唯一の民間学童保育所として「緑町三丁目学童保育所」愛称よつばクラブが誕生しました。場所は新所沢駅西口から徒歩十分。ケヤキ並木通り沿いの三階建てレンガ造

りの民家です。目印はシャッター。スカイブルーを背景にライトグリーンのよつばとNPOのキャラクター「がくどん」をモチーフにした絵で出迎えます。入り口入って左手は遊び場スペース。



通称「ホール」。ここは風船を使ってボール遊び、ゆうさん（指導員）お手製のスポンジボールを使った野球を楽しんでいます。今年は野球



少年が増え、「よつばスタジアム」として使われることが多くなりました。一階の廊下を直進すると左側に十畳の和室。更に奥に柿の木が映える庭。和室は五年生女子に人気のスポーツ。好きな音楽を聞きながらくつろぐ姿が見られます。庭に面した廊下には、卓球台。学年を超えて卓球を楽しむ姿が見られます。庭は、春先は草取り、夏はカナヘビ探しが流行。秋になると柿の木には、たくさんの野鳥達が柿の実を味わいにやってきます。バードウォッチングが楽しめます。二階、左側は「ラウンジ」。



子ども達のロッカーがあり、生活の拠点です。子ども達の遊びによって、時には図書室、工作室、ゲーム場と化します。四時三十分（おやつタイム）食堂に変化。コロナ禍の今は、各テーブルにMAX三人で座り、シールドを必ず置くなどの感染対策もしています。「今日のおやつ何？」はただいまと同様の挨拶です（笑）。



ひだまりみなみ

ひだまりみなみは、所沢駅より十分ほどの南小学校東門近くの静かな住宅街の一面にあります。平屋の民家で、玄関まで続く飛石や大きな柿の木があり昔懐かしい感じがする外観です。

室内は、子どもたちが快適に生活できるようにリフォームしてあり、床は無垢材を使用しているのとても明るく温かみがあります。ホールの庭側が全面窓になっていて日当たりが良く、お迎えに来た保護者の方が子どもたちの様子を見ることや話をすることもできます。

「見て！ベアゴマ回せるようになったよ」と回して見せたり、「今、これやってるか



ら」と遊んでいるゲームを見せたりしています。

和室では、レゴや井形ブロック遊びをしています。本コーナーは、四畳ほどの部屋に本が置いてあり、ゆっくり本を読むことができます。時には、コンサート会場になることもあります。三年生の女の子たち

学校教室の活用で二支援へ

今年度より、所沢市の方針で、児童の過密化や大規模化解消のために、学校の教室を一時的に利用して、支援の単位を増やすことで、支援員を増やし、保育の充実を図る取り組みが進められています。

椿峰学童クラブ (たいようクラス)

椿峰児童クラブは椿峰小学校内にあります。一教室を学童専用スペースとしてリノベーションした施設です。それ以前の学

ちが「五時三十分より始まります」とチケットを配り始め、コンサートが始まると下級生のお客さんが手拍子したり、曲を口ずさんだり微笑ましい光景です。



中にあります。日当たりも良く、太陽の日差しを浴びながら、木を基調とした柔らかな雰囲気のカラブです。市松模様のソフトな床では、子どもたちがゴロゴロと寝ころび、ホッと一息つく姿をよく目にします。

今年度からは隣の学習室を放課後から利用させていただいています。ここではバイゴマや缶ゴマ、けん玉、コリントゲーム等、動きのあるあそ

びを楽しんでいます。今年の夏休みには自分たちでバイゴマの勝負をするようになります。



ベイゴマ回想 〜高原のベイゴマ〜

小林 富雄

八十年代のはじめ、町の片隅でベイゴマに興じる子ども姿は見かけない。己の子どもの時代の憧憬とほろ苦い思い出が後押しして、「いつか取り組みたい」と思っていた。指導員仲間から「狭山ヶ丘の駄菓子屋に置いてあった」と教えてもらったのがはじまりだった。

下校時間を見計らって遊ぶ。

「ただいま。なにそれ？」
「ベイゴマっていうんだよ」
「やってみたい！」と、興味を持つ子もいればうまく巻けないし回せないから飽きてしまう子もいる。少しずつ回せる子が増えてきたら「トコ」をこしらえて「トコ」の上での戦いがはじまる。またひとつクラブの遊びが増えた。

そんなある日、「最後のベイゴマ工場ついに生産打ち切り」のニュースが飛び込んで来た。「ファミコン」が世に出、「ますます子どもが外で遊ばなくなった」と社会問題



化しつつある時代だった。

子どもたちと相談の結果、「作るの（生産を）止めないで！」の気持ちで作文に書いて渡しに行くことになった。八十四年の冬休み、一路荒川大橋のたもとにある最後のベイゴマ工場日三铸造所へと出かけた。

彼は一年生からクラブの仲間になり、ほどなく兄ちゃんたち

に交じってベイゴマを回し、彼らのそれに倣いヤスリで削り、タタキで磨きをかけ興じていた。「お願い行脚」にも、川口駅に着いて「切符なくした〜！」と騒ぐ兄ちゃんたちに交じり参加していた。

鑄型に赤く溶けた鉄を流し入れ、たくさんベイゴマが出来上がる様子が目撃点となる。作文を読み上げる代表の兄ちゃんとそれを聞く社長さんをはなれるがわる見る。目的を遂げた達成感とお土産に頂いたベイゴマを大切にしまい所沢に帰って来たのだった。



夏休みにキャンプがある。今年は清里から近い頂上の美しい飯盛山（めしもりやま）登山をメインに計画された。彼は三年生になっていた。

「登山に持って行くお弁当やおやつ、敷物、雨具など“大事なものは登山用ザックに入れて行きます。」彼はしっかり聞いていた。そう、彼はザックの中にベイゴマを入れていた。途中の休憩場所では帽子で急ごしらえした「トコ」を作り遊ぶ。マック（指導員）も持ってきている。一緒に遊んでいる。ハイジがスキップしていそうな緑の高原で。彼は“大事なものを”を持って来ていたのだった。



飯盛山は他の団体で賑わっている。頂上が狭いためテーマパークのアトラクション待ちよろしく登頂順番を待つ。「ここでは出すなよ。お願いだから」

林間学校なのだろう、各組毎に登頂し頂上に着くとザックからリコーダーを出し「エーデルワイス」を奏でる。美しかった。こっちはザックにベイゴマだ。さっさと戻ってベイゴマやるうぜ。彼はハイジの様に下山する。明日も晴れだ。

ここに登場する「コバン」こと小林 富雄さんは、今から四十年近く昔？現、椿峰学童クラブの前身、小手指たいよう学童クラブの初代指導員でした。

今は、専門の「花緑工房 open」としてフリーの庭＆お花仕事人として活躍中。

これは、「コバン」が学童クラブの指導員だった時の愛とロマンのストーリーです。

「たいようクラブ」の愛称もコバンと当時の子どもたちが命名したものです。今でも「椿峰たいよう学童クラブ」として受け継がれています。



坂本 勉 指導員

榑峰学童クラブ

学生時代のサークル活動の一環で、児童養護施設の学習ボランティアを四年間続けた経験が児童福祉へ進もうと思ったきっかけです。

クラブではさっか〜と呼ばれています。人当たりが良く、とても丁寧。いつもニコニコ明るいキャラです。たくさん一緒にあそんでくれる楽

しいお兄さんの存在です。

榑峰でのベイゴマブームを牽引しています。さっか〜がベイゴマの対決を進んですることで、子どもたちも楽しみ方を知り、子ども同士での対戦も盛に行われるようになりました。年明けにはベイゴマ大会も計画中です。

得意なのは聞き上手なところ。あそびではじっくりと考えるものが好きです。将棋とマンカラが得意です、と。

子どもの気持ちを聴くことを第一に考えています。例えば子ども同士のトラブルを大人が解決するのではなく、子どもが自分で考え、気づきにつながるような声掛けを心掛けています。

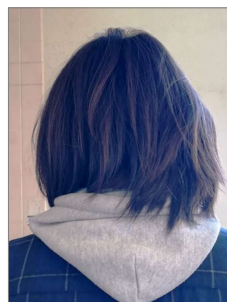
今まで大失敗してしまっ

た事は、最初の学童で当時二年生の女の子がしつこくからかってきたので、「そういうことしていると嫌いになっちゃうかもよ」と軽く言ったことで、大号泣させてしまいました。

こちらにはその気はなくても、子どもにとってはとても重く、多大な影響を与えてしまっただと深く反省をしました。以後言葉遣いには細心の注意を払うようになりました。

元気いっぱいであそびが大好きな子どもでした。小学生の頃はドロケイばかりしていた記憶があります。秘密基地を作ったり、木登りしたり、とにかく体を動かすのが大好きでした。今と大違いです。

次はこの人



榑峰学童の子どもたちは、エネルギーが豊富なおもしろい事が大好きな子が多いです。新しい物にはどんどん挑戦してきます。工作や手芸も人気で、どの子も創造性豊かです。

コロナ禍で最初の頃は慣れないマスク、黙食などお互いの距離も気持ちもどこか離れていました。でも今では以前とさほど変わらないくらいの

編集後記

今は自由にクラブ見学ツアーなどが難しい状況ですが、今回の紙面から、三クラブの施設の様子が皆様に伝わると嬉しいです。

私事ですが、今年度四月に三ヶ島学童に異動し、九か月が経ちました。施設は老朽化が激しいのですが、とても広い原っぱで子どもたちは、それぞれ好きな遊びを思う存分楽しんでいます。

十七時は真っ暗！その中で子どもたちと夜空を眺めることが最近の楽しみです。時々、不思議な光に遭遇することもあります。(北田)



学童クラブの会のHPはこちらから！

